

インバウンド誘客 反転攻勢への対応方向

令和7年度当初予算額：18.9億円 [前年度比：149.3%増] ※2月補正含み、事業費ベース

本県のインバウンド誘客に係る現状と課題

①宿泊者数が低位（2024年1-10月：191,990人（全国37位））、回復率（2019/2024同期比：58.7%（全国45位））

➢ **ゴールデンルート※からのインバウンド誘客に取り組む必要** ※インバウンドに特に人気のある東京や箱根、富士山周辺、京都、大阪を周遊するルート

②利用が多い宿泊施設はシティ・ビジネスホテルであるのに対し、本県は旅館構成比が高い（全国：28.8% 三重県：38.2%（2023年12月末時点））

➢ **宿泊施設の和洋室化など受入環境の充実に取り組む必要**

③全国的に個人旅行化が進む中、団体旅行の割合が高い（全国：14.2% 三重県：29.7%（2024年4-6月））

➢ **個人旅行者が利用する海外OTA（オンライン旅行社）などを活用したプロモーションに取り組む必要**

出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」、「インバウンド消費動向調査」

1. 反転攻勢への戦略策定

〔予算額：16百万円〕

新 インバウンド誘客に関する戦略の策定（一部2月補正）

➢ 本県の強み・弱みの分析、インバウンド誘客に向けた取組の方向性の整理

3. インバウンド誘客に向けたプロモーション

〔予算額：1,142百万円〕

新 ゴールデンルートや県周辺へ旅行を計画しているインバウンドに向け、海外OTAや検索サイトによる広告配信を強化（2月補正）



フランスメディアムトリップ

新 大阪・関西万博の機会を捉えた万博会場、関西国際空港における観光PRの実施

新 伊賀発祥の忍者を大阪・関西万博においてPR

新 フランスミッションの成果を踏まえたフランスからの誘客強化

新 レンタカー訪問に適した県内観光地等の情報発信によるレンタカー周遊の促進

○F1日本グランプリを目的に来県するインバウンドに向け、県内宿泊と期間前後の県内周遊の促進

○JNTO（日本政府観光局）と連携した三重県の魅力や観光情報の発信

○紀伊半島地域の広域連携による海外旅行会社の招請、商談会の実施

新 中央日本総合観光機構・中部経済連合会・近隣自治体と連携し、中部地域内の観光コンテンツの整理、ツアー誘致を目的としたファムトリップの実施

○三重県観光連盟において実施するインバウンド向けプロモーションへの支援

新 観光誘客に重点的に取り組む市場に向け、それぞれの市場に強みを持つインフルエンサーによる情報発信や関係団体等と緊密に連携して実施する「観光・物産・食」が一体となったプロモーションの実施

【「観光・物産・食」が一体となったプロモーション関連の主な施策】

○県産品の輸出促進に向けた商談会やテストマーケティングの実施

新 伊勢茶ブランドの展開に向けた戦略策定、海外プロモーションの実施

2. インバウンドの受入環境の充実

〔予算額：646百万円〕

新 インバウンドが快適かつ便利に滞在できる環境整備のため、宿泊施設の和洋室化やトイレの洋式化等の取組を支援



宿泊施設の和洋室化

新 宿泊施設開発の課題解決に向けて、宿泊施設業界の動向やファイナンス、開発要件に関して専門的な知見を有するアドバイザーを活用し、宿泊施設の誘致を推進

新 熊野古道来訪時における二次交通の利便性を向上させるためのアクセスバスを運行するとともに、新たにタクシー事業者を活用した調査・実証事業を実施

4. MICE誘致・産業観光の推進

〔予算額：48百万円〕

○MICE誘致に向けたPRセミナーの開催、商談会への出展

新 企業ミーティングやインセンティブ旅行の誘致に向けたモデルコースの造成と情報発信



MICEセミナー

新 三重県産業観光推進協議会と連携した産業観光のプロモーションや視察受入企業の裾野拡大の促進、滞在の長期化に向けた取組を実施



海外企業の視察受入

5. データマーケティングの充実

〔予算額：44百万円〕

新 位置情報を活用した人流データやWebにより収集するアンケートデータ、クレジットカードの決済情報といったリアルタイム性の高いデータをもとに、インバウンドの動態・消費動向を分析

新 県内宿泊施設に対するインバウンドの受入状況を調査・分析